

# 教育経済建設常任委員会行政視察報告書

須 田 瑞 穂

## ○富山県富山市

### 小中一貫的連携教育について

#### 【所 見】

芝園小学校は、平成17年4月に総曲輪小学校と八人町小学校が統合により芝園小学校として開校、翌平成18年4月、安野屋小学校と統合、平成20年4月に愛宕小学校と統合し、4つの小学校がひとつとなり、芝園中学校と小・中学校一体型校舎となり、小中一貫的連携教育を実践後、富山県県土美化推進功労賞、子どもの読書活動優秀実践校（文部科学大臣表彰）や、プログラミング教育公開授業にも熱心に取り組んでいる。

視察目的であった小中一貫的連携教育では、児童（小学生）と生徒（中学生）の連携については、小中合同授業・体験授業や、小中合同避難訓練、図書館まっりの合同開催、小・中・高・PTAによる合同挨拶運動を行っている。また、教職員の連携については、小中合同民生児童委員との懇談会、小中合同夏期研修会、互見授業参観週間を実施し、小中学校の教職員が協力し、芝園の子供を育てる力量を高めているとのことであった。また、小学校の英語指導では音声・文字・映像を組み合わせたマルチメディア学習システムであるCALLシステムの活用を推進し、その他、読書センターと学習・情報センターを兼ね備えた機能を持つメディアセンターを活用し、自ら学ぶ習慣を育てる教育も行っている。

小中一貫的連携教育のメリットとしては、中一ギャップの解消という部分が位置づけのひとつと考えていたが、今回の視察を通じて、小学生と中学生が当たり前前に接することにより安心して勉強や運動をすることができ、教職員も連携を強化することにより中学校に入学する生徒を受け入れやすく、送り出す小学校の教職員にとっても安心して送り出すことができる等の印象を受けた。

足利市においては、県立高校の合併が進んでいる中ではあるが、将来的には小学校や中学校の統合等も検討しなければならない地域にとっては大切な問題だと考える。今回の富山市の視察を将来的な部分ではしっかりと参考にしながら取り組んでいきたい。

## ○石川県金沢市

### 金沢市における美しい景観のまちづくりについて

#### 【所見】

講師は、金沢市役所都市整備局景観政策課担当課長（兼）課長補佐不破正人氏から御説明いただいた。

金沢市では、「風格と魅力を兼ね備えた美しい世界都市・金沢」の実現に向け、金沢特有の伝統的な町並みや用水、斜面緑地、寺社風景などの保存・保全や魅力ある沿道景観・夜間景観の形成に関する市独自の景観関連条例を制定し、平成21年には金沢市における美しい景観のまちづくりに関する条例を制定している。この条例では、金沢市独自の部分として眺望景観の保全、保存対象物の指定、景観審議会の設置を規定しています。その後、金沢の個性と魅力を磨き高め貴重な財産として後代に継承していくことを目的とした川筋景観保全条例や、屋外広告物条例等を制定し、景観を通じてまちづくりを積極的に行っているとのことであった。その他、金沢市の景観についての助成制度も非常に多く、市が景観について積極的に取り組む姿勢を感じた。

景観についての役所組織については、歴史を担当する部署や、文化を担当する部署や、都市計画を担当する部署等、組織の中でも多くの部課に担当が分かれてしまう内容でもあるが、金沢市は景観に関係する課を同じフロアに組織することにより、充実を図り連携を強化しているとのことであった。

また、金沢市民も景観についての意識は非常に高く、金沢の景観に関する取材や調査を行い良好な景観形成のために活動する市民ボランティアである景観サポーターと景観みまもりたいが組織され、多くの方が活躍しており、その他、7つの専門部会からなる金沢市景観審議会も組織されており、さらなる景観向上のために活動しているとのことである。

足利市における景観についての取組は、平成31年2月1日に足利学校・鑿阿寺周辺が景観重点地区に指定された。歴史的には、昭和57年から足利学校復元事業や石畳通りの路面整備事業が開始され、平成21年に足利市景観計画を策定し、翌平成22年に、足利市景観条例を制定した。多くの先輩議員や当時の市当局がタッグを組んで少しずつ前に進めてきた事業が、本市の景観の取組であると考えられる。金沢市の美しい景観のまちづくりに対する取組を参考にしながら、今後の足利市の景観についての取組を前に進めていきたい。